

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第88回本部会議 記録

日 時／令和3年12月24日(金)

15:02～15:29

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第88回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

それでは、資料1をご覧ください。まず、主な指標の状況でございますが、先般決定されました北海道のレベル分類の考え方に基きまして、指標の状況の内容についても見直しを行っております。指標をレベルの移行の判断を行う移行指標とモニタリングを行うその他の指標に区分いたしまして、全道のほか、札幌市、札幌市を除く地域について、記載をしております。

まず、全道の移行指標の状況でございますけれども、昨日時点で、いずれもの指標も、レベル2の移行の指標は下回っておりますけれども、ご覧いただいておりますとおり、重症病床使用率を除き、前の週よりも増加しているということでございます。また、その他の指標にございます新規感染者数の今週先週比が大きくなっているという状況でございます。札幌市、札幌市を除く地域についても、全道と同様の傾向にございますけれども、特に札幌市においては、その増加幅が大きいという状況でございます。

続いて、スライド2です。各圏域ごとの状況でございますけれども、札幌市や旭川市を含みます道北圏において、新規感染者数が前の週を上回るなど、各指標が増加傾向にございます。その一方で、道南圏域など、道内の半数以上の圏域では新規感染者が確認されていないという状況でございます。

続いて、総評です。医療提供体制ですけれども、療養者数は増加傾向、入院患者数はやや増加という状況です。感染状況です。2桁の新規感染者数の確認が続いております。医療施設、事業所等での集団感染により感染者数が押し上げられている状況です。先週との比較で大きく増加し、増加のペースも速くなっている。なお、30代以下の新規感染者数の増加も見られるという状況でございます。

今後の対策です。オミクロン株についてですが、国内での市中感染が確認されている。道では、海外や道外に滞在歴のある患者及び感染経路不明の患者については、原則、すべての検体のゲノム解析、ここには書いておりませんが、デルタ株のスクリーニング検査を実施しております。オミクロン株の疑いを含みます感染が確認された場合には入院、濃厚接触者の場合には宿泊療養施設での滞在とする取扱方針を広く周知し、共有を図ってまいります。

感染リスクが高まる時期を迎える中で、最近の感染事例の行動履歴には会食も見られておりまして、クリスマスや忘年会・新年会、帰省に伴う会食などの場面における感染防止行動の実践について呼びかけてまいります。多くの医療機関が休診となる年末年始の対応として、検査・医療・療養体制の確保を図りながら、発熱の相談窓口等の周知を行ってまいります。

医療従事者や高齢者等への接種の前倒しを含め、ワクチンの3回目接種の円滑な実施に

向け、市町村支援に取り組んでまいります。

飲食店を対象とした第三者認証制度やワクチン・検査パッケージ制度の登録促進に取り組んでまいります。ワクチン・検査パッケージ制度の推進に必要な無料検査等については、来週から開始し、順次、全道域への拡大を図ってまいります。

次に、スライド4以降でございますけれども、北海道のレベル分類に基いて、各指標についてグラフ化するということが、全道のほか、札幌市とそれ以外の地域におけます各状況について、それぞれ資料を作成して整理しておりますので、後ほどご確認いただければと思いますけれども、一部ピックアップしてご説明いたしますと、スライド16でございます。検査数を記載させていただいておりますけれども、ゲノムの解析の状況について若干触れさせていただきますと、全道におけるオミクロン株に関しますゲノム解析ですけれども、11月1日から昨日までの陽性者586人に対しまして、297の検体についてゲノム解析を行っております。オミクロン株については確認されていないという状況でございます。

また、スライド19から21ですけれども、30代以下60代以上別の新規感染者数と入院患者数をグラフ化しているというものでございます。これまで、感染拡大期には、若者の感染者数の増加が先行して見られるという傾向にございまして、また、高齢者の新規感染者数の増加に伴い、入院患者の増加が見られるという傾向にございまして、これらについて、相関性をモニタリングしていくということで、資料の方を整理しております。

スライド22をお願いします。集団感染の発生状況です。本年10月以降の集団感染の発生状況ですけれども、減少しているような状況ではございますけれども、次のスライドを見ていただいて、直近1週間ごとの状況でございますけれども、12月分の集団感染ですが、全てこの1週間の間に発生しているという状況でございます。

続いて、ワクチン接種の状況でございます。まず道内ですけれども、8割近い方が2回目接種を終えられているという状況です。また、今月から始まった3回目接種についてですけれども、VRSベースですが、約15,000の方が接種を終えられているという状況でございます。また、追加接種に関してですけれども、先週、岸田総理が8か月を待たずに接種できる場合の考え方について表明されておまして、それを受け、資料に記載しておりますけれども、対象者等の整理が行われております。これまで、2回目完了からの接種間隔は、原則8か月とされておりましたけれども、今般、医療従事者等や高齢者施設等の入所者・従業員の方々などについては6か月以上、それ以外の高齢者の方については7か月以上に、それぞれ短縮できるという取扱いが示されてございます。

また、それに関しますワクチンの状況ですけれども、12月22日にファイザー社製ワクチン3回目第3クール、モデルナ社製ワクチン3回目第2クールの道への配分量等が示されてございます。各市町村への配分につきましては、今後別途整理の上お知らせすることといたしておりますけれども、これらの配分によりまして、国の推計による本年度末から来年4月前半頃までに必要となるワクチンについては確保される見込みでございますけれども、道といたしましては、初回接種で未使用となっている残余ワクチンの活用なども含めまして、市町村と連携して、円滑な接種が進むように取り組んでまいります。

また、一番下のところでございますけれども、職域接種の追加接種の関係ですが、12月13日から国において受付開始しておりますが、昨日時点で41件の申請があったところでございます。

最後、スライド29でございますけれども、3つ目の○にございますが、12月20日から、デジタル庁が提供いたします新型コロナワクチン接種証明書アプリの運用が開始されてございます。道内全ての市町村がこのアプリに既に対応済みとなっておりまして、マイナンバーカードをお持ちの方につきましては、簡単な手続で公的な接種証明書の入手が可能となっているという状況でございます。

その他のスライドについては、のちほどご覧いただければと思います。

続いて、資料2でございます。資料1 道内の感染状況等について、専門家及び有識者のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせしているところでございます。

有識者、専門家の皆様方からは、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますけれども、主なものをご紹介しますと、(1-①) 道や市町村のホームページに加え、報道機関等を通じた感染防止行動の徹底等のアナウンスをお願いしたい。また、3回目ワクチン接種について、市町村が計画通り対応できるよう、ワクチンの確保と接種相談窓口でのフォローをお願いしたいといったご意見。(1-②) オミクロン株のまん延は時間の問題であり、道内で早ければ1月にも爆発的な感染拡大が起こることを想定した対応方針を確認しておくべきといったご意見が寄せられております。

また、市町村、関係団体からは、(2-①) ワクチン接種について、オミクロン株により、道民の関心が高まっている今が好機であり、1人でも多くの方に接種いただけるよう、更なる加速に向けた対応をお願いしたいといったご意見。また、ワクチン3回目接種も滞ることなく進めていただきたいといったご意見が寄せられてございます。こうしたご意見につきましては、今後の取組の参考としてまいります。

私からの説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市の感染状況につきまして、資料3に基づいて説明をいたします。それでは、最初のスライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計についてでございますが、昨日の12月23日の時点で75人、そのうちリンクなしの人数は19人となっております、その割合は25.3%となっております。人口10万人当たりの新規感染者数は3.82人となっております、今週に入りまして発生した医療機関でのクラスターの影響もありまして、先週の12月16日の0.92と比べて、増加が見られているところでございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。札幌市内の入院患者数の状況でございます。昨日時点の入院患者数、黄色の棒グラフでございますが、これは27人となっております、重症患者数、赤の折れ線グラフでございますが、これは0人となっております。入院患者数の増加が見られているところではございますが、現時点では医療の負荷は抑えられていると考えております。

それでは、最後のスライドをご覧ください。このスライドは検査数のスライドでございます。直近の1週間の検査件数は6,884件でございますが、一定数の検査を継続して行っております。陽性率でございますが、昨日時点で1.1%と、増加傾向にはありますけれども、5%未満の低い数値で推移をしているところでございます。

国内でもオミクロン株の市中感染事例が確認されておりまして、今後の感染拡大が懸念されるところでございます。年末年始にかけましては、旅行や帰省といった普段会わない人と接触する機会や飲食の機会など、感染リスクが高まる場面が多くなると考えられますが、感染拡大を抑えるためにも、体調が悪いときには外出や移動を控えるとともに、軽い症状であっても、体調に違和感を感じた場合については、早めの受診や早めの検査を受けることが重要であるというふうと考えております。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部・振興局から、順次発言をお願いいたします。
まず、教育長からお願いします。

【倉本教育長】

学校等における感染症対策について、ご説明をいたします。資料4の1頁目をご覧ください。道教委では、総務部および保健福祉部と連携をし、実効性のある対策の強化を図ることを目的に、先月から札幌医科大学の高橋教授、そして道立総合研究機構の換気の専門家の方に私立学校を含め、道内の学校に25校を訪問していただきまして、改善点を整理周知する感染症対策改善セミナーを実施してまいりました。セミナーでは、例えば、電話を複数の職員で共有する場合には、使用後に電話機を消毒するより、使用者が使用の前後に手指消毒をする方が、より現実的で実効性があることや、換気扇の清掃状況次第で換気量が大きく変わることなど、具体的な状況に即したご助言をいただいております。今後、この度のご助言を踏まえまして、学校における感染症対策の強化ポイントを整理をし、広く周知していく予定です。

また、学校が冬休みに入ることから、先週、児童・生徒・保護者の皆様に向けて、あらためて注意喚起のリーフレットを配布いたしました。資料4の2頁をご覧ください。冬休みは、児童・生徒が学校以外で活動する機会が増えることから、会話の際や人が集まる機会など、感染リスクが高まる4つの場面を例示をし、注意点やワンポイントのアドバイスを示しております。

次に、3頁をご覧ください。新型コロナウイルス感染症に関するいじめ、差別偏見に関する相談や、感染不安を理由として登校できない児童生徒に関する相談に対応するため、あらためて開設しております教育相談窓口を周知をするものです。道教委といたしましては、引き続き、学校や家庭の皆様と連携をして、冬休みの間の児童・生徒の感染防止対策を徹底してまいります。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、石狩振興局長、お願いします。

【濱田石狩振興局長】

石狩振興局につきまして、資料5により説明をさせていただきます。初めに、札幌市を除いて管内の新規の感染者数は、直近1ヶ月で10名程度と低い水準が続いておりました。特に千歳保健所管内では11月以降、ゼロが続いておりましたが、昨日53日ぶりに1名の感染が確認されまして、今後の増加が懸念される状況も出てきてございます。

また、ワクチン接種では、高齢者のほとんどが2回接種を終えるなか、振興局では、若年層の方々にワクチンの効果などについて正しい理解を深めていただく動画を10月、11月に前後編を製作いたしまして、普及啓発を行ってまいりました。また、管内の市町村におきましても、動画やホームページを通じて、情報発信が行われてきたところございまして、2ヶ月前の10月時点と今月の状況を見ますと、2回接種を終えられた方の割合が52%から71%となり、着実に接種が進んできております。

次に、地域の取組でございますが、管内の首長の皆様とお話する機会があるごとに感染状況やワクチンの接種などについて、情報共有と意見交換をさせていただいております。また、今後の感染拡大に備え、江別・千歳の両保健所がそれぞれ主体的に取組を進めてき

ておりまして、関係市町村、医師会、医療機関などと連携した勉強会や意見交換を行うほか、医師や看護師、薬剤師の方々のご協力をいただき、自宅療養者の医療体制づくりワーキングを新たに設置しまして、今後の感染拡大時の対応マニュアルの作成や、情報認識の共有を図るなど、もし再び感染が拡大するような場合にも、万全の態勢で臨める体制作りを行っているところでございます。

その他、第三者認証制度の申請を促進するため、市町村の方々と共に飲食店を訪問し、感染防止対策への協力依頼や制度の普及に努めますとともに、振興局のホームページに第三者認証のページを開設しまして、市町村ごとの認証店の一覧を掲載するほか、各市町村と申請状況や今後の取組方針を共有し、認証の取得促進に向けて取り組んできたところでございます。

また、年末年始に向けた取組としましては、振興局と管内市町村の若手職員が感染防止対策の徹底を呼びかけるリレーメッセージ動画を制作し、周知PRを図っておりまして、市町村のホームページやSNSを通じましても、広く発信していただいているところでございます。

石狩振興局といたしましては、今後とも市町村との連携を緊密に図るとともに、地域の医療機関などとも連携をし、感染拡大に備えるほか、SNSなど様々な情報発信ツールを積極的に活用しながら、引き続き、感染拡大の防止に向けた取り組みを行ってまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、渡島総合振興局長、お願いします。

【鳴海渡島総合振興局長】

渡島管内における感染防止対策の取組を報告いたします。まず、函館市を含む渡島管内の感染状況ですけれども、10月に入ってから新規感染者が激減しておりまして、12月に入ってから、3日から新規感染者がゼロになる日が続くなど、全体的に感染が落ち着いている状況にあります。ただ、昨年は年末から感染者が増加をして、今年1月には管内において集団感染事例が多発するなど、医療提供体制がひっ迫したことがありますし、また、新たな変異株であるオミクロン株に警戒する必要があることなども踏まえまして、振興局といたしましては、決して気を緩めることなく、年末年始の感染拡大防止に向けて、地域一丸となって対応していく考えでございます。

まず地域における取組及び危機感の共有についてですけれども、振興局では12月13日に臨時の地方本部会議を開催をいたしまして、年末年始における対策の内容を協議したところです。決定した内容につきましては、各市町や関係団体に周知をするとともに、年末年始は普段会わない人との接触機会が増加をして、感染が拡大する契機となり得ることから、緊張感を維持をして、地域一丸となってあらためて感染防止対策を徹底するよう協力を要請したところです。

次に、感染拡大防止行動等の周知・啓発についてですけれども、地域住民や帰省などで地域に滞在するの方々に対しまして、年末年始における感染拡大防止行動の実践を要請するために、啓発用のリーフレットを作成して、右側に載せてありますけれども、リーフレット作成をいたしまして、SNSで発信をいたしますとともに、報道機関に提供し、また、管内のホテルや旅館などにも配布をしております。またあらためて、地元のFM局やケーブルテレビなどにもご協力をいただきまして、函館市との共同メッセージを発信をいたしますとともに、コープさっぽろさんのご協力をいただきまして、各店舗を訪れる地域住民に

対して感染防止対策の徹底を呼びかけているところでございます。

それから、先日函館市におきまして、全国初となるカラオケ喫茶の技術実証が行われましたが、管内の事業者に対しては、これまでも第三者認証制度について、市町や関係団体を通じ周知を行ってきたところです。この度、より多くの飲食店で取得していただくため、あらためて文書で周知をいたしますとともに、私を含め、振興局の幹部が、関係団体に直接、活用促進を依頼したところでありまして、各店舗における感染防止対策の徹底・可視化が進んで地域の経済活動の活性化に資するよう、今後も認証店のアピールに努めてまいりたいと考えております。

最後に、医療提供体制の維持に向けた体制整備についてですが、必要な医療体制を確保するために、日頃から地域の医師会や医療機関など関係機関との連携を図ってきたところでございますけれども、感染が拡大する契機となりうる年末年始を迎えるにあたりましては、より連携を強化し、感染状況の的確な把握に努めてまいりますほか、感染者の減少によって、休止をしております宿泊療養施設につきまして、万一、道南圏で感染が拡大した場合に備えて、必要に応じて速やかに稼働できるようスタッフの確保に努めるなど、必要な準備をする進めているところです。

また、こうした取組と並行して、年明けから始まる第3回目のワクチン接種が円滑に進むよう、市町や医療機関などと連携をしながら適切に対応するなど、今後とも管内の感染防止対策に取り組んでまいりたいと考えております。

渡島からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局等からご発言はございませんか。なければ、本部長から発言をお願いいたします。

【本部長（知事）】

本日の新規感染者数については、12人という状況です。2桁の確認が続いています。医療施設等での集団感染が数を押し上げる一方で、会食の場面での感染事例、これも見られるという状況です。

こうした中、国内でオミクロン株の市中での感染事例も確認をされています。国の専門家においても、今後、感染拡大が急速に進むことを想定すべき状況との懸念が示されています。また、これからクリスマス、忘年会、帰省などに伴い、会食の機会が増える時期を迎えます。各本部長においては、今後の感染拡大に十分注意をし、道民の皆様に対し、飲食の場面においては、感染対策が徹底されたお店を選び、会話の時はマスクを着用すること、いつもと体調が違ふと感じた場合外出を控えることなど、あらためて基本的な感染防止行動の実践をしていただくよう、呼びかけをお願いいたします。

また、今週20日から、デジタル庁が提供する接種証明書アプリの運用が開始をされました。マイナンバーカードをお持ちの方は、簡単に利用可能となりますので、今後のワクチン・検査パッケージの実施も想定して、活用してほしいと思います。このパッケージを活用する際、ワクチン接種を受けられない方に対する予約不要の無料検査を、来週開始できるよう調整をしておりますが、早期に全道で、この無料検査を受けられるよう、準備を進め、道民の皆様にもしっかりと周知を図るよう指示をいたします。

そして、3回目のワクチン接種も始まっています。岸田総理から、3回目の接種間隔について、医療従事者や高齢者施設入所者の方などについては、6か月以上、その他の一般の高齢者の方については、7か月以上に短縮可能とされたところでありまして、今後、各市町村の判断によって、前倒しの接種が実施されることとなるわけでありまして、円滑に接

種が進められるよう、しっかりと市町村をサポートしてください。

さらに、本日でございますけれども、経口薬についてです。本日とも言われる国の薬事承認の後、対応薬局に対して、国から直接配送されるということになります。経口薬です。国と連携をしながら、道として取扱い可能な薬局、この取りまとめをしていただくように指示をいたします。

今年、アルファ株、デルタ株といった変異株の影響によりまして、本道でも、急速に感染が拡大をいたしました。現在の新規感染者数は、比較的、低い水準で推移しているところです。これまでの道民の皆様、事業者の皆様、多大なるご理解とご協力に心から感謝を申し上げます。また、この1年間、最前線に対応に当たられてこられた医療関係者の皆様、市町村の皆様をはじめ、感染拡大防止の取組にご協力いただきましたすべての皆様に対して、この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

一方、感染リスクが高まる年末年始を迎える中、感染力が強いとも指摘をされておりますオミクロン株に対して、道としても、高い警戒感を維持をして対応をしていく必要があります。この感染症への対応に年末年始はございません。また、年末年始は、多くの医療機関も休診となるという状況もあります。各本部員においては、検査・保健・医療提供体制について、医療機関などとの連携を十分に図りながら、あらためて点検・強化をし、オミクロン株による感染の急拡大に備えるとともに、休みの期間における業務や連絡体制について再確認をするなど、万全の体制で年末年始を迎えるように指示をいたします。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第88回本部会議を終了します。

(了)